

2021 2/9

No.2132

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



横須賀市の「長井海の手公園ソレイユの丘」で菜の花が見ごろ。一面、黄色いじゅうたんのように咲き誇り、春の訪れを告げている（写真は1月13日撮影）。



contents

視点点描 3
権力って何だ？

講演録 4
さあ、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックだ。
東京五輪・パラリンピック組織委員会会長 森 喜朗

経済双眼鏡 7
立法府の責任
私権を制限するということ

政治 8
“黄信号” ともる菅政権
波乱含みの今年の政局

2021年内政展望 12
コロナ、疲弊する地方に追い打ち
存在感増す自治体首長

くらし2021 16
「標準」は並ではなく最先端

アジアの風 18
フィリピン警察の「文化」

NNAアジア経済レポート 19

事務局だより

◇2021年2月定例講演会
2月15日(月)午後1時30分～3時
講師は株式会社関電工特別顧問の山口学氏
演題は「仕事への誇り・使命感～福島第一原発事故復旧の現実～」
※新型コロナウイルス感染防止のため、開催方法をYouTubeによるライブ配信に変更しました。

【お知らせ】 神奈川政経懇話会ではホームページと会報「政経かながわ」に会員コーナーを設け、新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせは事務局 ☎045 (226) 2121。

視点 点描



権力って何だ？

分かっているようで説明が難しい、知っているけれど使い方やイメージは人それぞれ。そう感じているものに「民主主義」と「権力」がある。一見、相いれぬように映るのだが、密接に関連し、ともに社会生活には欠かせない。だが、圧倒的に嫌われているのが後者だ。「この人、権力志向だな」。記者なら誰しも取材で感じたことがある。

るだろう。大臣や首相を目指す政治家に、あるいは上昇志向が見え隠れする自治体職員に。重責を担おうという意志の表れだから悪いことではない。この難しい時代、むしろ「立派な覚悟」と見るべきかもしれない。でもなぜか否定的な印象を受けることがある。辞書で「権力」を調べてみる。いわく「他人を押さえつけ支配す

る力。支配者が被支配者に加える強制力」。辞書からして抑圧的なイメージの語を並べている。

この語が紙面に登場する場合も否定的なニュアンスで使う場合が多い。例えば「権力の暴走を許すな」。そんな嫌なら、ご退場願えばいいのと思ってしまう。

それでも存在し続けている。なぜか。それは、一人ではなしえない欲求を充足するために必要だから。都市社会学者の故・藤田弘夫氏は、古典をひもとき、そう説く。権力の概念を「支配」の側面だけでなく「保障」という面にも光を当て、存在理由を説明する。例えば強制的に徴収される税金は老後を保障し、制限を設ける刑法の改正は社会の安心・安全が得られるというように、権力は二面性を併せ持つというのだ。大事なのは、権力は私たちに我慢を強いるものだが、それを可能

にするためには「近い将来、より大きな保障がある（だろう）ことを示す必要がある」という点。国会で議論されている新型コロナウイルス感染症対策の関連法案がいい例だ。法改正により、何が制限され、どういう安心が得られるのか。政権の説明と野党の追及はどちらに説得力があるのか。

民主主義の手続きの一つ、選挙で選ばれた国会議員の攻防は、私たちの一票がどう反映されているかを点検するいい機会だ。秋まで行われる総選挙の判断材料にもなる。藤田氏はこうも言っている。「最良の権力は、小さな支配で大きな保障を与えるものである」と。権力は私たちのためにある。そう思える政治が行われるよう、しっかりと権力を監視していかねばと思う。

(神奈川新聞社編成部長

佐藤 英仁)